

また、7月の起債(純増ベース、国債、金融債を除く)は、400億円と前月(365億円)を約1割方上回る見込みである。一般事業債が前月の65億円から126億円へとかなりの増加が見込まれているが、これは当月の償還額が前月をかなり下回るという事情のほか、発行面では資金的に比較的ゆとりのある電力会社の起債を翌月以降に繰り延べ、この分を一般事業債の起債に振り向けるという技術的な調整を行なったことによる。このため、電力債は55億円と前月(66億円)を下回る見込みである。なお、地方債の増加(40億円、前月25億円)、政保債の減少(179億円、前月209億円)は主として償還の多寡によるものである。新規長期国債の市中引受け額は、前月並みの100億円にとどめられ(前年同月100億円)、うち証券会社引受け分も前月と同じく41億円(前年同月62億円)と決定された。

## 実体経済の動向

### ◇生産、出荷とも根強い増勢を持続

(生産——前2ヵ月急増のあと小幅続伸)

鉱工業生産(季節調整済み、以下同じ)は4月+3.3%、5月+2.8%と大幅な増加を続けたあと、6月も速報ベース(以下6月計数は速報値)で+0.3%と小幅ながら続伸した。このように、生産の基調にはこのところかなり根強いものがうかがわれる。とくに耐久消費財が乗用車、各種家電製品を中心に2ヵ月続けて高い伸びを示したほか、一般資本財も6月には若干減少したとはいえ、基調としては大型受注機械、汎用工作機械等を中心にかなり根強い増加を続けている。一方生産財は、4、5月かなりの増加を見せたあと、6月には減少を示すなど月々の動きにはフレがあるが、ならしてみると比較的小幅な伸びにとどまっている。

最近の動きをやや詳しくみると、一般資本財は、5月には土木建設機械、金属加工機械、発送配電機器の増加が目だったため、風水力機械、ボイラー原動機、電子応用装置が反動減を示したに

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	42年				43年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4月	5月	6月
鉱工業	131.4	138.2	145.4	148.1	153.2	157.4	—
前期(月)比	4.3	5.2	5.2	1.9	3.3	2.8	0.3
前年同期(月)比	19.0	19.5	19.1	17.2	18.6	19.1	—
投資財	6.3	6.1	6.9	3.0	1.2	3.3	0.7
資本財	6.8	8.0	9.1	0.8	1.1	5.1	0.7
同(輸送機械を除く)	9.0	7.8	8.3	4.7	4.0	3.6	0.7
輸送機械	2.3	8.6	8.9	5.0	2.4	7.5	—
建設資材	5.0	2.1	2.0	8.3	1.1	0.1	0.1
消費財	3.6	5.3	6.1	1.4	8.0	3.3	2.2
耐久消費財	1.7	8.2	8.9	4.4	6.8	4.2	3.4
非耐久消費財	3.2	3.8	4.5	3.1	6.7	2.3	1.0
生産財	3.3	4.1	3.3	3.8	1.2	2.1	0.9

(注) 通産省調べ、43年6月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

### 鋳工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	42年				43年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4月	5月	6月
鋳指数	130.2	137.3	140.8	146.6	151.9	156.5	—
工業前期(月)比	3.7	5.5	2.5	4.1	3.6	3.1	-0.3
業前年同期(月)比	17.4	18.6	15.4	16.6	19.2	19.4	—
投資財	7.8	8.2	0.4	9.4	0.9	6.3	-3.3
資本財	9.6	10.7	-0.2	9.3	0.1	10.0	-3.9
同(輸送機械を除く)	7.6	7.6	8.0	4.6	8.6	-0.3	-1.1
輸送機械	12.7	16.0	-13.1	19.2	-14.7	29.7	—
建設資材	6.5	0.4	2.4	8.6	4.0	-1.0	-2.4
消費財	1.1	5.7	3.3	0.9	10.1	0.3	4.6
耐久消費財	6.6	10.5	6.5	1.8	14.0	1.1	6.5
非耐久消費財	-1.3	4.6	2.1	-0.7	9.0	-0.5	2.9
生産財	3.5	3.1	3.4	3.0	0.7	3.0	-0.9

(注) 通産省調べ、43年6月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

もかかわらず、全体では+3.6%と相当な増加となったが、6月にはポンプ、エレベーター、耕うん機、圧延機械等の反動減を中心に-0.7%の微減となった。資本財輸送機械はトラックが増勢を持続しているうえ、5月は船舶の反動増(+16.3%)があって+7.5%と大幅増加を示した。建設資材は5月に金属製建具類の減少を主因に-0.1%と微減し、6月もセメントの減少を中心に前月並みの微減を続けた。こうした最近の伸び悩みには1~3月期急増(+8.3%)に対する反動も影響している模様である。耐久消費財は1~3月伸び悩みのあと、4月+6.8%、5月+4.2%、6月+3.4%とこのところ高い伸びを続けている。乗用車、カラー・テレビ、エアコンディショナー等の主力商品をはじめ、冷蔵庫、洗たく機等各種家電製品も引き続き上伸している。非耐久消費財は5月に食料品、医薬品を中心に+2.3%と相当な増加を示したあと、6月はたばこの反動減を主因に減少した。生産財は5月に各種機械部品、非鉄製品、繊維等を中心に+2.1%と伸び率を高めたが、6月には各種化学製品(硫安、カプロラクタム等)の減少を主因に-0.9%の減少となった。

(出荷——輸出、設備投資、個人消費にささえられてかなりの増勢を持続)

鋳工業出荷は4月+3.6%、5月+3.1%と著増を続けたあとだけに、さすがに6月は-0.3%の微減となった。6月の動きには前月著増した船舶の反動減がかなり影響していることを考慮すると基調としては生産同様根強い増勢が続いているものと判断できよう。こうした最近の出荷の動きには1~3月伸び悩みの反動増(各種家電製品、大型受注機種の一部など)という面のあることも見のがせないが、基本的には①国内需要が一般資本財出荷(4~6月期+9.0%)、耐久消費財出荷(同+12.1%)の動きなどから推して、設備投資、個人消費を中心にかんがりの増加基調にあること、②輸出が好調を続けていること、によるものである。

内容を見ると、4月に急増した一般資本財は、5月にはさすがにボイラー原動機、電子応用装

置、化学機械の反動減を主因に-0.3%と微減を示し、6月も農業用機械、圧延機械等の反動減から減少を続けたが、水準としてはかなり高いままで推移している。この間、金属加工機械が高い伸びを続けているほか、発送配電機器、電動機等量産機種も持ち直しぎみとなっているが、こうした動きは中小企業の設備投資動向ともからんで注目される。資本財輸送機械は5月に船舶の著増を主因に+29.7%となり、6月はその反動でかなり大幅な減少となった模様である。この間トラックの出荷は7月以降実施の自動車取得税の影響もあり好調を続けている。建設資材は、5月に金属製建具類、橋りょう、鉄骨等の減少を中心に-1.0%と減少したあと、6月もセメント、板ガラス等の減少を主因にかんがりの減少となった。耐久消費財は5月の+1.1%に引き続き6月も+6.5%と大幅な増加を示した。乗用車、エアコンディショナーが引き続き好伸したほか、石油ストーブ等暖ちゅう房熱機器も高いテンポの出荷を続けている。非耐久消費財は、5月にたばこの反動減を主因に-0.5%と減少を示したが、食料品、医薬品は引き続き高い伸びを示している。生産財は生産と同様5月に鉄鋼、非鉄地金、各種機械部品の増加を主因に

+3.0%とかなり高い伸びを示したが、6月はその反動もあって-0.9%の減少となった。繊維、石油石炭製品は引き続き伸び悩みを示している。  
(在庫—増勢は依然鈍化きみ)

製品在庫は4月+0.3%、5月+1.6%のあと、6月も+0.5%(速報)と比較的小幅の増加にとどまっており、このところの増加テンポは1~3月ごろまでの動きに比べかなり鈍化している。とくに電動機、金属加工機械(工作機械、プレス)、トラック等資本財量産機種種の在庫が低水準にとどまっているのが注目される。

内容を見ると、一般資本財は5月にボイラー原動機、農業用機械、電動機等を中心に-0.6%の減少を示したが、6月には鋼索、耕うん機、トラクターの増加を主因にやや増加した。資本財輸送機械はトラック(とくに軽、小型)の減少を主因にかなり大幅な減少を継続している。建設資材は5月に木材・木製品を中心に+2.5%の増加を示したあと、6月もセメント、みがき板ガラス等の増加を主因にかなりの増加を示した。耐久消費財はエアコンディショナー、乗用車、各種家電製品等を中心に5月+5.4%、6月+3.1%と続伸している

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	42年			43年	43年		
	6月	9月	12月	3月	4月	5月	6月
鉱指	111.2	115.9	124.2	132.4	132.8	134.9	—
前期(月)末比	2.2	4.2	7.2	6.6	0.3	1.6	0.5
前年同期(月)末比	6.5	9.7	18.0	21.9	19.2	20.9	—
業指	83.0	83.0	87.6	90.3	87.4	86.2	86.9
製品在庫率	83.0	83.0	87.6	90.3	87.4	86.2	86.9
投資財	4.9	7.2	2.7	7.8	-1.5	-0.7	0.7
資本財	1.2	6.5	7.2	12.2	-2.3	-2.9	1.2
同(輸送機械を除く)	0.5	7.1	6.9	4.4	0.6	-0.6	2.7
輸送機械	3.8	-1.4	14.8	47.9	-8.2	-14.4	—
建設資材	6.4	6.8	-2.8	4.5	-1.3	2.5	4.0
消費財	1.4	2.2	10.1	5.8	0.5	3.4	1.6
耐久消費財	2.7	0.2	9.2	14.5	3.2	5.4	3.1
非耐久消費財	1.6	4.9	9.9	0.4	-0.7	3.0	0.5
生産財	2.4	4.5	6.1	5.7	0.8	0.7	0

(注) 通産省調べ、43年6月は速報。  
前年同期(月)末比は原指数による。

が、これらは売れ行き好調の品目が多く、前向きの在庫積み増しといった色彩が濃いように思われる。非耐久消費財は5月にたばこの著増を主因に+3.0%の増加を示したが、6月には繊維二次製品、印画紙等が増加を示した反面たばこが減少したため、微増にとどまった。生産財は、5月に鉄鋼、各種機械部品、繊維等が減少した一方で、非鉄地金、石油製品がかなり増加を示したため+0.7%の増加となったが、6月は非鉄、石油製品の増加にもかかわらず鋼材が減少したため前月比横ばいに推移した。このような出荷在庫の動きを映じて、製品在庫率指数も、5月86.2、6月86.9と昨年10~12月の水準まで下げもどしたままの状態に推移している。特殊分類別には、一般資本財、建設資材の在庫率が低めにとどまっているのが目だっている。

メーカー原材料在庫は、4月-0.9%のあと5月も-0.2%とこのところ伸び悩みを続けている。業種別には鉄鋼業、プラスチック工業の在庫圧縮が目だっている反面、石油製品工業では積み増しが著しい。

特殊分類別にみると、国産分が素原材料、製品原材料ともに減少を続けている反面、輸入分はい

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	42年			43年	43年		
	9月	12月	3月	3月	4月	5月	
在庫指数	127.9	130.0	133.4	133.4	132.2	131.9	
前期(月)末比	2.2	1.6	2.6	1.5	-0.9	-0.2	
国産分	3.8	0.3	3.4	2.4	-1.4	-1.3	
素原材料	5.4	1.0	10.1	8.2	-0.9	-0.1	
製品原材料	3.7	0.4	0.6	0.6	-1.6	-1.1	
輸入分	-3.3	6.0	0.1	-0.9	0	2.5	
素原材料	-3.2	6.1	-0.9	-1.8	0.5	2.3	
在庫率指数	88.9	90.0	90.1	90.1	88.8	88.2	
国産分	88.2	88.4	89.4	89.4	87.3	85.7	
素原材料	94.5	100.8	107.9	107.9	106.0	104.6	
製品原材料	88.1	87.6	86.3	86.3	84.1	82.7	
輸入分	92.3	94.8	90.6	90.6	94.0	96.9	
素原材料	94.2	97.2	91.4	91.4	95.0	97.7	

(注) 通産省調べ、43年5月は暫定。

製造工業原材料消費の推移

(季節調整済み・%)

	ウエイト	うち 輸入分	42年			43年			
			7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月	5月
			4.3	1.3	3.0	1.0	-0.3	0.5	0.5
製造工業	100.0	9.6	4.3	1.3	3.0	1.0	-0.3	0.5	0.5
国産分	90.4		4.1	1.1	2.9	1.1	-0.5	1.0	0.6
素原材料	12.4		1.1	-1.9	0.7	1.5	0	0.9	1.3
製品原材料	78.0		4.5	1.6	3.2	1.0	-0.5	0.9	0.6
輸入分	9.6		7.2	2.8	4.0	0	1.7	-3.6	-0.5
素原材料	8.9		6.8	1.9	4.1	0.5	2.2	-3.3	-0.5
製品原材料	0.7		11.7	14.4	1.5	-6.6	-4.6	-5.6	0.4

(注) 通産省調べ、43年5月は暫定。

輸入素原材料消費・輸入多消費業種生産の動き

(季節調整済み前期比・%)

	輸入素原材料消費	輸入多消費業種生産*	鉱工業生産
42年 7~9月	+ 6.8	+ 4.8	+ 5.2
10~12月	+ 1.9	+ 2.1	+ 5.2
43年 1~3月	+ 4.1	+ 4.0	+ 1.9
4・5月	- 2.0	+ 0.7	+ 3.4

(注) \* は鉄鋼、非鉄地金、石油、紡織、ゴム、皮革の6業種。

ずれも増加を示し、4月徐々に増加した輸入素原材料は、5月も鉄鉱石、ニッケル鉱石、鉛鉱、ボーキサイト、原油等を中心にかんがりの増加となった。

一方、原材料消費は4月、5月それぞれ+0.5%と、ともに小幅の増加にとどまり、本年2月以降の落ち着き基調を持続した。この結果、鉱工業生産の高い伸びとの乖離が目だっている。業種別には、窯業・土石業がかなり高い伸びを続けている反面、ウエイトの高い鉄鋼業、繊維は伸び悩みを続けている。特殊分類別にみると、国産分の消費は製品、素原材料とも増加しているが、輸入素原材料の消費は引き続き減少している。このような

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	42年		43年	43年		
	9月	12月	3月	2月	3月	4月
	265.8	271.8	277.5	271.4	277.5	281.8
総合指数	11.4	2.3	2.1	1.8	2.2	1.5
前期(月)末比	-3.2	3.0	-2.5	4.2	1.4	-7.7
素原材料	13.8	1.6	3.1	1.9	2.0	2.7
製品						

(注) 通産省調べ、43年4月は暫定。

動きは前表のとおり、鉄鋼、石油、非鉄、紡績等輸入素原材料多消費産業の生産の伸び率鈍化を反映したものといえよう。

以上のような在庫、消費の動きを映じて、5月の原材料在庫率指数は88.2と前月比-0.7%の微落を示した。もっとも年初来の動きをならしめてみると在庫率指数は88~90

程度とほぼ横ばいを続けている。特殊分類別には国産分が低下した反面、輸入分はかなり上昇(97.7、前月比+2.8%)した。

4月の販売業者在庫は、3月(+2.2%)に引き続き+1.5%の増加を示した。

財別にみると、素原材料(-7.7%)が国産分、輸入分ともに相当な減少を示した反面、製品は織物、洋紙等を中心に+2.7%とかなり増加した。(設備投資——引き続き強い動き)

設備投資の進捗状況とはほぼ一致した動きを示すとみられる一般資本財出荷は、1~3月に前期比+4.6%と高水準ながら増勢をやや鈍化したあと、4月前月比+8.6%、5月-0.3%、6月(速報)-1.1%と、月々のフレはあるものの、4~6月平均では前期比+9.0%となり、大勢としてかな

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	42年	43年			43年		
	10~12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月	
民需	1,506	1,261	1,528	1,660	1,452	1,472	
( )	( 8.3)	(-16.2)	( 21.1)	( 45.9)	(-12.5)	( 1.4)	
同/海運を除く	1,405	1,167	1,360	1,473	1,340	1,266	
( )	( 11.9)	(-17.0)	( 16.5)	( 38.5)	(- 9.0)	(- 5.6)	
製造業	876	679	756	872	703	694	
( )	( 9.7)	(-22.5)	( 11.4)	( 24.8)	(-19.4)	(- 1.3)	
非製造業	622	585	765	780	754	761	
( )	( 4.0)	(- 6.0)	( 30.7)	( 71.7)	(- 3.3)	( 1.0)	
同/海運を除く	528	489	604	589	676	546	
( )	( 14.4)	(- 7.3)	( 23.5)	( 56.8)	( 14.9)	(-19.2)	

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

り根強い増加基調にある。一方、設備投資の先行指標である機械受注(海運を除く民需)は4月急増のあと、5月、6月ともそれぞれ前月比-9.0%、-5.6%の小幅減少にとどまり、この結果4~6月では前期比+16.5%とほぼ1~3月の落込みを取りもどした形となっている。また、7~9月の機械受注見通し調査によれば、船舶を除く民需は、前四半期比+0.2%と4~6月の水準でほぼ横ばいに推移するものと予想されており、これらから推して、機械受注は増勢は鈍化したものの、なお底堅い動きを続けるように思われる。

#### ◇主力商品はやや軟調

最近の商品市況をみると、これまで軟調裡に推移してきた石油、木材、砂糖等の品目では、徐々ながら底値感が台頭している一方、5、6月にかけて反騰傾向を示した鉄鋼、繊維の主力商品は、一部を除き再び小幅の下落を示した。

このように主力商品が総じて軟化を示している背景としては、季節的事情からこのところ国内の

需要が伸び悩みぎみとなっているうえ、輸出や、メーカーの市況対策の先行きに多少の疑問をいだく向きも流通段階にみられはじめ、大勢として慎重な手当て態度がとられていることが指摘される。

もっとも、流通段階においても末端需要が依然根強い動きを続けているため、先行きの需給関係に大きな引きゆるみが生ずるといった懸念はいただいておらず、一方メーカー側としても、現状は底固めの段階にあるとして先行きの需要の盛り上がり期待を寄せている向きが多だけに、目先、市況が一段と下押しを続けると予想する向きはほとんどみられないようである。

品目別の動きをみると次のとおり。

鉄鋼では、条鋼、鋼板類とも弱含みで推移した。内需が季節的事情もあって停滞ぎみで、取引は不活発となっている。また、好調な輸出にもそろそろヤマがみえてきたとの感触もあって、メーカーの市況対策(生産抑制、製品在庫のかかえ

#### 卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	上昇期 (ボトム 40/7) 40/7 →43/2	下降期 (ピーク 43/2) 43/2 →43/6	最近の推移							
				43年			43年6月			43年7月	
				4月	5月	6月	上旬	中旬	下旬	上旬	
総平均	100.0	+ 6.1	- 0.8	- 0.8	保合	+ 0.1	+ 0.1	保合	保合	- 0.1	
食料品	15.7	+ 9.7	+ 1.7	- 0.6	+ 2.8	保合	保合	- 0.3	+ 0.2	+ 0.4	
繊維品	10.7	+ 11.4	- 1.4	- 1.2	- 0.2	+ 0.7	+ 0.5	+ 0.1	+ 0.1	- 0.4	
鉄鋼	9.7	- 0.9	- 1.5	- 1.5	+ 0.2	+ 0.9	+ 0.4	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	
非鉄金属	4.4	+ 19.3	- 8.4	- 6.7	- 6.8	+ 2.0	+ 0.4	+ 1.0	+ 1.2	- 1.1	
金属製品	3.8	+ 4.6	- 0.6	- 0.3	- 0.2	- 0.2	保合	+ 0.6	- 0.7	保合	
機械器具	22.1	+ 1.1	+ 0.4	保合	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	保合	保合	- 0.1	
石油・石炭	5.6	0.0	- 3.4	- 0.1	- 0.6	- 1.7	- 1.0	- 0.2	- 0.5	- 0.7	
木材・同製品	6.2	+ 29.7	- 2.1	- 0.2	- 1.3	- 0.9	- 0.5	+ 0.1	+ 0.4	保合	
窯業製品	3.0	+ 7.1	+ 0.7	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	保合	- 0.1	保合	
化学製品	7.6	- 5.1	- 0.9	- 0.3	- 0.2	- 0.3	保合	- 0.2	- 0.1	- 0.4	
紙・パルプ	3.4	+ 2.5	- 0.5	- 0.1	保合	- 0.2	保合	保合	- 0.1	保合	
雑品目	7.9	+ 6.3	+ 0.2	- 0.3	+ 0.1	+ 0.2	保合	- 0.1	- 0.1	保合	
工業製品	82.0	+ 3.8	- 0.3	- 0.6	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	
うち											
大企業性	59.6	+ 1.3	- 0.2	- 0.6	+ 0.2	+ 0.2					
中小企業性	21.0	+ 11.0	- 0.2	- 0.4	保合	+ 0.3					
非工業製品	18.0	+ 16.4	- 2.6	- 1.3	- 0.5	- 0.4	- 0.4	- 0.2	+ 0.4	+ 0.1	

(注) 本行調べ。

込み)の先行きに疑問を持つ向きもあり、特約店の売り腰は、ひとところに比べやや弱まっている。繊維では、綿糸が定期高の影響から異常高値となったが、そ毛糸、人絹糸、生糸は値下がりした。これは、輸出成約増をはやしてひとところ盛り上がった市場人氣が落ち着きを取りもどしてきたこと(人絹糸)、メーカーの市況対策も金融力からそろそろ限界に近づいているものがみられること(そ毛糸、人絹糸)などが、値下がりの要因とみられる。もっとも、糸商、一部のユーザーでは、仕ぶり慎重のうちにも先行きに対する期待感もあって、値ごろ品の手当て買いを進める動きもうかがわれるだけに、大幅な値くずれを予想する向きは少ないようである。非鉄は保合いに推移した。銅は、電線メーカーによる補充買いが散見されるものの、山元の増産が続き、全体として荷余り感解消されるに至っていないため保合いとなった。鉛も、バッテリー・メーカーの手当て買い一巡から刺激材料に乏しく、保合いに推移した。石油のうち揮発油では、メーカーの市況対策の効果浸透から底値感が台頭している。C重油は、電力向け出荷が相変わらず伸び悩んでいるが、フレート高から輸入玉の入着が減少したため、需給地合いには変化なく保合いとなった。セメントは、好調な出荷にささえられて強含みに推移している。もっとも、最近に至り官公需の前年度からの繰越し分一巡から、メーカーの値上げ意欲は後退しつつある。木材ではようやく底値感が台頭している。内地製材については、値ごろ感から補充買いの動きがみられはじめており、下げ止まりとなっているほか、外材もこのところ保合いに推移している。化学製品では、供給圧力が強く徐々に下値を追うもの(塩ビ、硫酸)もみられる一方、メーカーの自主減産による市況対策が奏効し反騰するもの(ポリエチレン)もあるなど、区々な値動きとなった。紙は洋紙、板紙とも下げ止まり気配を示している。流通段階での荷余り感依然払しょくされるに至ってはいないが、荷動きはいくぶん盛り上がりぎみとなっている。砂糖の需要は、中元関係

の伸び悩みから不ざえ裡に推移したが、メーカー側の市況対策の足並みが再びそろってきたため、市況は更月後小反発した。

(卸売物価——横ばい傾向を持続)

6月の卸売物価(総平均)は、前月比+0.1%上昇した。これは、石油・石炭、木材、化学等が値下がり続けた反面、鉄鋼(鋼材、鉄くず)がかなりの値上がりを示し、繊維(生糸、綿糸布)、非鉄(銅鉱・地金)も反発に転じたことによる。なお、産業別分類では、工業製品が前月比+0.2%と続騰した一方、非工業製品は同-0.4%と引き続き下落傾向を示した。

7月にはいと、上旬は、非鉄、繊維(主として生糸)、石油等の値下がりから前旬比-0.1%の小幅軟化となったが、中旬はその水準で保合いとなるなど総じて横ばい傾向を続けている。

(消費者物価——6月に久々に下落したあと7月は再び上昇)

6月の消費者物価(東京)は、前月比-1.4%と

消費者・輸出入物価の推移

(単位・%)

	ウエイト	前年度比 上昇率		最近の推移			最近の 前月 前年 同月 比	
		41年度	42年度	43年				
		平均	平均	5月	6月	7月		
消 費 者 物 価 (東 京)	総 合 ( 季 節 商 品 を 除 く)	100.0	+4.7	+4.1	+0.5	-1.4	+0.6	+ 6.7
		91.4	+4.9	+3.9	+0.5	保合	+0.3	+ 6.3
	食 料	40.9	+3.0	+5.7	+0.5	-3.3	+1.3	+10.0
	住 居	10.7	+5.7	+3.7	+0.1	+0.1	+0.4	+ 2.4
	光 熱	4.5	0.0	+0.1	-0.2	-0.2	保合	+ 0.8
	被 服 費	13.0	+3.6	+3.0	+0.5	-0.6	+0.1	+ 5.7
物 価 (全 国)	総 合 ( 季 節 商 品 を 除 く)	100.0	+4.7	+4.2	保合	-0.9		+ 5.6
		91.4	+4.7	+3.9	+0.6	+0.1		+ 5.7
	入 口 上 の 五 都 市	100.0	+4.6	+4.1	+0.1	-1.0		+ 5.4
	総 合 ( 季 節 商 品 を 除 く)	91.3	+4.6	+3.9	+0.5	保合		+ 5.5
	輸 出		+0.6	+0.2	-0.3	+0.1		+ 0.5
	輸 入		+1.4	-0.4	-0.6	+0.1		+ 0.7
交 易 条 件		-0.8	+0.7	+0.3	保合		- 0.2	

(注) 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

11か月ぶりにかなりの値下がりを示した。これは季節商品の大幅下落による影響が大きく、これを除く総平均では、前月比保合いとなっている。品目別では、夏野菜の大量出回りなどにより、食料費(このほか、鮮魚、鶏卵なども下落)が大幅値下がりとなったほか、光熱費(灯油)、被服費(衣料)、雑費(教養娯楽費)なども小幅ながら値下がりした。なお、7月は食料、住居、雑費の値上がりから前月比+0.6%と再び上昇した。

(輸出・輸入物価——ともに反騰)

輸出物価(本行調べ)は、4月、5月とあいっいで小幅の低下を示したあと、6月は前月比+0.1%の上昇となった。これは、雑品目(ラワン合板等)の値下がりにもかかわらず、繊維(綿糸布、スフ綿)が国内市況高から、金属製品(伸銅品)も原料高から、それぞれ小反発を示し、機械器具(船舶)、化学製品(沖縄向け硫酸)等も微騰したためである。

輸入物価も前月比+0.1%と4か月ぶりに上昇した。これは、鉱物性燃料(原油)、食料品(砂糖、とうもろこし等)は下落したものの、金属(鉄、くず鉄、銅系非鉄)、化学製品(合繊原料)が大幅値上がりしたためである。

この結果、交易条件指数は99.6と前月比保合いとなった。

#### ◇外資の流入増などから総合収支の黒字は一段と増大

6月の国際収支は、貿易収支が季節的要因により黒字幅を拡大したのに加え、長期資本収支も外資の取入れ増高から受超となったため、総合で181百万ドルの大幅黒字を記録した。当月の貿易収支を季節調整済み計数で見ると、輸出が5月の急伸の反動から減少したもののなお高水準を維持し、一方、輸入は概して落ち着いた動きを続けたため、差引き225百万ドルの黒字と引き続き大幅黒字を持続した。また、貿易外収支は輸入の季節的減少に伴う運賃支払の減少から、赤字幅を縮小した。

次に、長期資本収支は、外債の発行、長期イン

パクト・ローンの取入れが増加したほか、外国人の本邦株式への投資も増加したため、45百万ドルの受超に転じた(前月は32百万ドルの払超)。

金融勘定では、輸出の好調による買持輸出手形の著増や、輸入の落ち着きに伴う輸入ユーザンスの減少から為替銀行のポジションが大幅に好転する

### 国際収支

(単位・百万ドル)

	42年			43年			前月
	10~12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月	
經常収支	19 <sup>△</sup>	296	198	27	44	127 <sup>△</sup>	47
貿易収支	386	118	549	144	169	236	73
輸出	2,836	2,569	3,112	986	1,093	1,033	845
輸入	2,450	2,451	2,563	842	924	797	772
貿易外収支 <sup>△</sup>	328 <sup>△</sup>	354 <sup>△</sup>	305 <sup>△</sup>	103 <sup>△</sup>	110 <sup>△</sup>	92 <sup>△</sup>	96 <sup>△</sup>
移転収支 <sup>△</sup>	39 <sup>△</sup>	60 <sup>△</sup>	46 <sup>△</sup>	14 <sup>△</sup>	15 <sup>△</sup>	17 <sup>△</sup>	24 <sup>△</sup>
長期資本収支 <sup>△</sup>	224 <sup>△</sup>	110 <sup>△</sup>	15 <sup>△</sup>	28 <sup>△</sup>	32	45	69
基礎的収支 <sup>△</sup>	205 <sup>△</sup> ( <sup>△</sup> 451)	406 <sup>△</sup> ( <sup>△</sup> 112)	183 <sup>△</sup> (338)	1 <sup>△</sup> (40)	12 (137)	172 (161)	116 ( <sup>△</sup> 107)
短期資本収支	113	115 <sup>△</sup>	33 <sup>△</sup>	16 <sup>△</sup>	8 <sup>△</sup>	9	80
誤差脱ろう <sup>△</sup>	5	44	71	5	48	18	15
総合収支 <sup>△</sup>	97 <sup>△</sup>	247	221	12 <sup>△</sup>	52	181 <sup>△</sup>	51
金融勘定 <sup>△</sup>	97 <sup>△</sup>	247	221	12 <sup>△</sup>	52	181 <sup>△</sup>	51
外貨準備増減 <sup>△</sup>	17 <sup>△</sup>	42	13 <sup>△</sup>	69 <sup>△</sup>	25	57 <sup>△</sup>	36
その他 <sup>△</sup>	80 <sup>△</sup>	205	208	57	27	124 <sup>△</sup>	15

(注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。

2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。

3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

### 輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通関		輸出信用状	輸出認証	輸入承認
	輸出	輸入	貿易じり	輸出	輸入			
42年								
7~9月	863	777	86	887	989	695	908	972
10~12月	872	826	46	887	1,065	732	931	1,078
43年								
1~3月	945	808	137	960	1,025	780	1,014	903
4~6月	1,048	813	235	1,068	1,027	849	1,119	927
43年								
2月	904	799	105	917	1,006	769	1,009	986
3月	970	814	156	973	1,027	795	1,016	944
4月	985	800	185	1,007	1,014	818	1,045	880
5月	1,125	831	294	1,149	1,053	884	1,202	987
6月	1,034	809	225	1,048	1,013	844	1,110	913

(注) 季節調整はセンサス局法による。

四半期計数は月平均額。

とともに、外貨準備もかなり増加した。

6月の輸出は前年同月比+22.2%と引き続き高水準を示した。季節調整後では前月比8.1%の減少となったが、これは前月の水準が船舶輸出の異例の動きなどからとくに高かったことの反動による面が大きく、頃来の輸出の上伸基調に格別変化が生じたとはみられない。商品別の動き(通関ベース)をみると、上記の船舶の低調のほかは、綿・スフ製品などが依然低迷を続けている一方、鉄

鋼、自動車、テレビ等が好伸を示しているという従来からの傾向に変わりはない。また仕向け先別には相変わらず米国向け、東南アジア向けの伸びが大きく(前年同月比でそれぞれ+39%、+23%)、この両地域向け輸出が明らかに全体の輸出を大きく押し上げている。

輸出信用状も5月に急伸(前年同月比+31.3%)のあと6月には増勢一服となった(同+17.5%)

### 通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	42年		43年		43年		
	10~12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月	
食料品	454	461	485	153	176	156	
小麦	(+7)	(+2)	(0)	(+3)	(-2)	(-2)	
とうもろこし	72	74	69	24	23	22	
砂糖	(+4)	(+16)	(-25)	(-13)	(-38)	(-23)	
原燃料	58	58	67	20	26	21	
羊毛	(0)	(+2)	(+24)	(+29)	(+19)	(+24)	
綿花	28	45	44	18	16	10	
鉄鉱石	(+15)	(+25)	(+42)	(+58)	(+49)	(+9)	
鉄鋼くず	1,805	1,787	1,919	634	681	604	
大豆	(+19)	(+13)	(+13)	(+16)	(+14)	(+9)	
木材	78	82	97	29	33	35	
石炭	(-18)	(-15)	(-3)	(-8)	(-9)	(+6)	
原油	88	127	154	52	57	45	
化学製品	(-17)	(0)	(+12)	(+19)	(+14)	(+4)	
機械機器	180	186	218	74	77	67	
鉄鋼	(+11)	(+11)	(+15)	(+16)	(+7)	(+25)	
非鉄金属	72	39	34	12	12	10	
その他	(+33)	(-33)	(-60)	(-53)	(-59)	(-68)	
合計	72	69	68	25	24	19	
	(+4)	(-12)	(+11)	(+33)	(+15)	(-12)	
食料品	256	249	314	103	109	102	
小麦	(+39)	(+26)	(+37)	(+62)	(+37)	(+19)	
とうもろこし	108	122	125	42	42	41	
砂糖	(+30)	(+31)	(+23)	(+34)	(+17)	(+20)	
原燃料	438	416	409	137	139	133	
羊毛	(+29)	(+22)	(+19)	(+18)	(+17)	(+22)	
綿花	166	164	156	54	57	45	
鉄鉱石	(+22)	(+16)	(+3)	(+18)	(+11)	(-16)	
鉄鋼くず	286	331	340	107	120	113	
大豆	(+31)	(+36)	(+22)	(+21)	(+18)	(+26)	
木材	107	64	51	19	19	13	
石炭	(+110)	(-12)	(-47)	(-39)	(-37)	(-65)	
原油	169	159	149	44	63	42	
化学製品	(+62)	(+25)	(+1)	(+6)	(+9)	(-13)	
機械機器	144	144	149	46	54	49	
鉄鋼	(+40)	(+41)	(+24)	(+31)	(+32)	(+12)	
非鉄金属	144	144	149	46	54	49	
その他	(+40)	(+41)	(+24)	(+31)	(+32)	(+12)	
合計	3,130	3,120	3,255	1,057	1,176	1,022	
	(+23)	(+15)	(+9)	(+13)	(+11)	(+4)	

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。

5月分の内訳は速報計数。

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。

5月分の内訳は速報計数。

### 通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	42年		43年		43年		
	10~12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月	
食料品	108	104	90	29	34	27	
小麦	(-8)	(+24)	(+17)	(+19)	(+38)	(-6)	
魚介類	69	71	52	17	20	15	
繊維製品	(-18)	(+27)	(+8)	(+12)	(+31)	(-14)	
綿織物	484	367	478	151	162	165	
合繊維物	(-7)	(+1)	(+11)	(+9)	(+17)	(+11)	
化学製品	69	45	58	18	20	20	
非金属	(-22)	(-20)	(-9)	(-18)	(-1)	(-4)	
金属製品	100	69	91	28	32	31	
鉄鋼	(+9)	(+5)	(+21)	(+9)	(+30)	(+24)	
機械機器	173	149	206	65	69	72	
(船舶を除く)	(-6)	(-3)	(+15)	(+12)	(+10)	(+24)	
テレビ	78	71	83	28	28	27	
ラジオ	(+6)	(0)	(+11)	(+11)	(+7)	(+10)	
自動車	498	484	585	182	198	205	
船舶	(+4)	(+22)	(+37)	(+33)	(+38)	(+40)	
光学機器	351	353	425	134	141	150	
その他	(+3)	(+22)	(+40)	(+38)	(+37)	(+45)	
合計	1,228	1,164	1,361	437	489	435	
	(+9)	(+20)	(+30)	(+16)	(+53)	(+25)	
食料品	962	884	1,109	343	395	371	
小麦	(+8)	(+20)	(+33)	(+25)	(+38)	(+34)	
とうもろこし	46	39	56	15	20	21	
砂糖	(-10)	(+2)	(+75)	(+55)	(+96)	(+78)	
原燃料	97	73	97	28	36	33	
羊毛	(+9)	(+11)	(+24)	(+8)	(+44)	(+22)	
綿花	129	137	178	58	62	58	
鉄鉱石	(+40)	(+47)	(+52)	(+53)	(+47)	(+58)	
鉄鋼くず	265	280	252	93	95	64	
大豆	(+9)	(+19)	(+21)	(-9)	(+174)	(-19)	
木材	85	73	91	29	33	29	
石炭	(+5)	(+6)	(+17)	(+20)	(+25)	(+5)	
原油	322	274	360	114	125	121	
化学製品	(+1)	(+15)	(+16)	(+14)	(+21)	(+13)	
機械機器	2,890	2,612	3,171	1,006	1,113	1,052	
鉄鋼	(+3)	(+15)	(+25)	(+17)	(+35)	(+22)	
非鉄金属							
その他							
合計							



が、これは前月集中した肥料(中共向け)の反動落ち、鉄鋼の一時的停滞などの事情が響いているものとみられ、7月にはいつてからは再びかなりの増勢を回復している。

6月の輸入は前年同月比で+3.2%、季節調整後の前月比で-2.6%と落ち着いた動きを続けた。これには一部品目で7月1日実施の関税引下げ(ケネディ・ラウンド関係分)を前に通関を繰り延べる動きがあったこともいくぶん響いている模様である。商品別の動向(通関ベース)をみると、機械、鉄鉱石、石炭、石油等は依然相当の増勢を続けているが、その他の品目は総体として落ち着き模様で推移しており、なかでも化学品、肉類、大

豆、雑品、非鉄金属、木材等の輸入水準が当月は低めとなっているのがやや目だっている。非鉄金属、木材の動きは国内市況の不ぞえを映じたものであり、その他は主として関税引下げ待ちの影響ではないかとみられる。

先行指標である輸入承認額は前年同月を20.9%下回った。これは前年同月の水準が大型航空機分の承認の関係でとくに高かったためであるが、そうした要因を除いてみても前年同月比微減(-1.2%)となっている。こうした状況から推して、目先、輸入が大幅な増加傾向に転ずるような事態はまずないように思われる。